

塩谷郡市医師会だより

平成18(2006)年12月21日 第44号

社団法人 塩谷郡市医師会 さくら市桜野 1319 番地 3 さくら市氏家保健センター内 Tel 028(682)3518

・ 平成18年度第3回役員会

平成18年度第3回役員会報告

平成18年12月11日(月)午後6時30分より医師会事務室にて開催された。

出席者：尾形会長・小林副会長・戸村副会長・西・山田・軽部・奥山・岡・本間・植木・阿久津博・川原事務長

会議に先立ち、11月28日にご逝去された加藤晴夫先生のご冥福を祈り全員黙祷を捧げた。



■ 議題

(1) 「休日夜間こども診療室」の現状と今後

平成18年上半期(4月～9月)の「こども診療室」受診者数は333名、(しおや)が160名、(くろす)が173名、一施設一日あたり5.0人が受診した。地区別の受診者は「しおや」は塩谷町と矢板市から130名(81%)、「くろす」はさくら市と高根沢町から148名(86%)と二極化を示した。また二次救急病院への搬送は1例あったが、受け入れも問題なかった。おおむね順調に運営されていると判断している。

平成18年上半期の在宅休日当番医受診者は3112名(小児は1343名)で昨年同期の3062名(1244名)より増加しており、こども診療室開設による在宅当番医への影響はないと考えている。先月同診療室協力医師を新たに募集したが参加医師はなく、平成19年度は本年度と同じ参加医師で当番を割り付ける予定である。二次医療機関勤務医へ個別に勧誘したら

どうかとの意見があり検討していく。(阿久津博)

(2) 地域の救急医療の現状と問題点

塩谷病院の常勤医師数はこの5、6年で34名から23名と11名減少し、小児科、整形外科、脳外科、産科の診療縮小に陥っている。

消防本部からの資料によると、平成16年、17年、18年上半期の救急車収容状況は塩谷病院が604名、444名、306名と半減しているのに対して、黒須病院は389名、379名、462名と増加している。黒須病院の常勤医師数は10名であり過重勤務となっていると想像される。

県保健福祉部によると、この地区は平日夜間の医療体制が整備されていないと報告されている。中核病院の医師不足は全国的な問題であり早期の解決は困難である。平日夜間の医療体制を考えるにあたり、会員のこれ以上の負担増は難しいので、在宅当番医を統合し余力を夜間の診療へ向けることを検討してはどうかとの提案があり、次回役員会に試案を出すことで一致した。広域行政組合の財政負担程度についても聞き取りを行うことが盛り込まれた。(阿久津博)



(3) 「医療連携パス(クリティカルパス)」の導入について

おかげさまで3カ年にわたる、医療機能分化推進事業が終了し報告書を作成したところであるが、県医師会から平成18年度医療連携体制推進事業(別事業)への参画依頼があり、急ぎ事業実施計画書、

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	阿久津博美 調整中 戸村 光宏 mtomura@sirius.ocn.ne.jp	川原 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

予算案を提出した。医療連携体制協議会を設置し、講習会の開催や連携表を作成することで連携を強化する。先日、塩谷病院において在宅酸素療法におけるクリティカルパス導入の第1回講習会を開催した。来年度からは各種疾患についての連携パス導入を推進していく予定である。(岡)

(4) 「物忘れ検診システム」について

平成17年度、栃木市において認知症検診モデル事業が実施された。一次検診該当者3783人のうち47人が三次検診を受け、13人が認知症、18人が軽度認知機能障害(MCI)と診断された。

認知症の早期発見・早期治療の重要性が指摘されており、塩谷地区においても「もの忘れ検診システム」を構築していく必要がある。行政が実施している老人健診に組み込んで一次検診を行い、研修会を行った上で個別検診実施医療機関を募り二次検診を行う。三次検診は精神科専門医または塩谷地区以外の専門施設に依頼する。判定後は介護予防事業の一環として経過観察や指導を行う。塩谷地区医療対策協議会において二市二町に検診システムを構築する案を提示し持ち帰って検討するよう依頼した。行政側の返事を待って導入を進める方向である。(小林正)

報告事項

(1) 塩谷地区医療対策協議会

11月28日、第5回塩谷地区医療対策協議会が開催された。こども診療室の上半期の報告、救急患者収容状況、栃木県小児医療圏の再編成、二次救急病院の現状、今後の救急医療体制、もの忘れ検診事業の提案、いじめ問題への取り組みなどについて協議した。塩谷地区の医療体制が崩壊の危機にあることを認識し、各方面に要望を続けていくこと、診療所、一次・二次救急病院の連携と役割分担をより進めていくこと、定期的な協議会の開催が了承された。

(2) その他

・医療廃棄物について

塩谷地区の医療廃棄物の9割は病院から出されており、リサイクル処理業者と各病院との交渉の仲介を始めた。経済的な問題もあり難しいが継続的に努力していく。(尾形直)

・看護師不足について

都市部において看護師不足は深刻であるが、塩谷地区ではまだ実感に乏しい。塩谷病院では慢性的に不足しているが、看護学校の学生募集状況は良好である。将来地元で働いてくれる看護学生を医師会推薦のような形で確保できないか検討したい。(尾形直、奥山)

・感染症対策委員会から

学校の集団予防接種において針刺し事故が発生したため再度注意喚起の連絡を行った。万が一障害がおきた場合は公的な補償がなされるが、それ以外(障害がない場合の慰謝料、示談金など)は行政から補償がないので、十分注意されたい。予防接種のヒヤリハット事例集を作成するよう県医師会に依頼した。また、日本脳炎予防接種は可能であるが、本人の同意書を忘れないようお願いする。(軽部)

・学校心臓検診委員会について

12月6日心臓検診委員会にて精密検査受診状況と管理指導表の集計報告がなされた。医療機関によって、疾患と管理区分や運動制限にばらつきがあった。県医師会からも精度管理の指示があり、精密検査は専門の医療機関に集中するよう学校側に働きかけることが了承された。

(文責：阿久津博美)

お知らせ

- 平成19年1月16日(火)
塩谷郡市医師会学術講演会
特別講演「医療訴訟の現状と対策」
<19:00～ 氏家保健センター>
- 平成19年1月18日(木)
栃木県医師会新年会
<18:00～ ニューイタヤ>
- 平成19年1月25日(木)
塩谷郡市医師会産業医学研修会
<18:30～ 氏家保健センター>
- 平成19年1月26日(金)
塩谷郡市医師会新年会
<18:30～ さくら市「三元閣」>
- 平成19年2月13日(月)
脳卒中予防講演会
<19:00～ 氏家保健センター>
- 平成19年2月14日(火)
第4回役員会
<18:30～ 氏家保健センター>
- 平成19年2月26日(月)
主治医研修会
<19:00～ 氏家保健センター>

麻薬旧免許証の返納について

旧免許証と返納届けを郡市医師会事務局へ19年1月10日(水)までに返送してください。

❖返納届日は記入しないでください

返納届けの右上部余白に捨印を押してください